

財務の概要

令和4年度は、引き続き施設将来計画を着実に実行した。令和元年度より着工している巴研究教育棟の増築工事を予定通りすすめた。また、足立医療センター完成に伴う旧東医療センター、および旧掛川キャンパスの解体を行い、ともに令和5年度に完了予定である。

収支面では、昨年引き続き COVID-19 関連等による収支へのマイナスインパクトは厳しいものであった。収入に関しては、外来収入・入院収入ともに大幅な減収となった。本院では外来の患者数が令和4年度は85万4千人となり、前年より5万9千人の減少。足立医療センターにおいては昨年、移転に伴う一時的な診療制限等による減収要因によって23万2千人となり、前年の22万4千人に比べ8千人程度戻ったが、コロナ前の令和元年度水準には戻っていないのが現状である。八千代医療センターもコロナ前の令和元年以降、3年連続して患者数が減少。令和元年との比較では、27万9千人から20万2千人（△7万7千人）と減少に歯止めが掛かっていない。よって医療収入は昨年度比で25億3千7百万円の減収となった。

支出に関しては経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ引き続き徹底的な経費削減を始め、重要な経営課題に対し根気強く取り組んだ。なお、昨年引き続き特例的な補助金として国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」としての財政措置により、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている医療機関に対する補助金が交付された。本学に対しても COVID-19 関連の補助金として約67億円の補助金が交付された。教職員への賞与については、過去5年間で最高額となった。表面上の基本金組入前収支差額は予算を6千5百万円上回る14億2千9百万円の収入超過となったが、5年間黒字が続いていた経常収支差額は、今回6年ぶりにマイナス1億2千4百万円の赤字となった。これは、令和2年度・令和3年度の COVID-19 関連補助金の返還金として27億2千万円が令和4年度に計上されたためである。経常収支差額は3年間赤字が続くと文科省より指導が入る大変重要な指標であり、非常に厳しい状況となった。